

インターネットで学ぶ発音教室

【研究の背景】

構音障害に対する指導には、発音を聞き分ける力をつける指導や、正しい構音を導く指導などがあり、特殊な専門的知識と経験を必要とします。しかし、本研究所の調査（国立特別支援教育総合研究所：2006）によれば、言語障害教育担当教員のうち経験年数が3年以下の先生が約4割を占めているという状況があります。また、言語障害教育の対象となるお子さんが多様化する中、言語障害教育担当教員向けの研修講座の中で、構音障害に関する内容は相対的に縮小される傾向があります。

このような状況の中、構音指導に不安を抱えている先生が多いのが現状だと言えます。構音指導に関しては、市販のテキストやビデオ教材もあります。しかし、テキストでは音を聞き分けたり、舌の動きや口形の変化等をとらえたりすることができず、具体的な指導技法を学ぶには不十分です。また、構音障害の状態は、子ども一人ひとりすべて異なります。このため指導方法や指導順序も、一人ひとり異なるのですが、現在のビデオ教材では必要な内容を必要な時に取り出し、指導を構成することが困難です。

【研究の目的】

このような現状から、本研究は以下の2点を目的としました。

- ①言語障害教育経験が短い先生方を主たる対象とした、構音障害に関する動画教材を開発し、その教材が子どもにも使用できるかを検討する。
- ②インターネット配信等を通して、構音障害に関する動画教材の中から、必要な時に必要な内容を容易に得られる手法を開発、提供する。

【研究の成果】

研究の成果として、WEB上に【ネットで学ぶ発音教室】を配信しています。以下の2つの内容で構成されています『理論編』（構音障害ってなあに？）

構音障害に関する基礎理論の解説

『実践編』（どうやって練習するの？）

比較的頻度が高い構音障害について構音指導の実際をテキストと動画で解説

【ネットで学ぶ発音教室】のトップページ



URL : <http://forum.nise.go.jp/kotoba/>

【教材例 <ストローを用いてサ行の子音を導く方法>】

口腔内の呼吸を、歯と舌先との間にできた、わずかなすきまを通り摩擦させて、前下方へ出すための構えを作ります。

舌を口の外に自然に出し脱力した安定した状態を保ちます。

ストローを舌の真ん中にそっと置きます。

舌は出したまま、ストローを舌と一緒にそっと上下の唇ではさみます。

呼吸をそっと出します。ストローの中に呼吸が流れるシューという音が聞こえてきます。

ストローの先を指先で塞いだり開けたりすると、途切れる音により呼吸が流れていることを確かめることができます。

次第にストローを抜き去っていきます。

舌は出したまま、口の構えも保ったまま、そっと呼吸を出し続けます。

舌先から完全にストローを抜き去っても、舌先にストローを近づけるとシューという音になるので、呼吸の流れを確かめることができます。

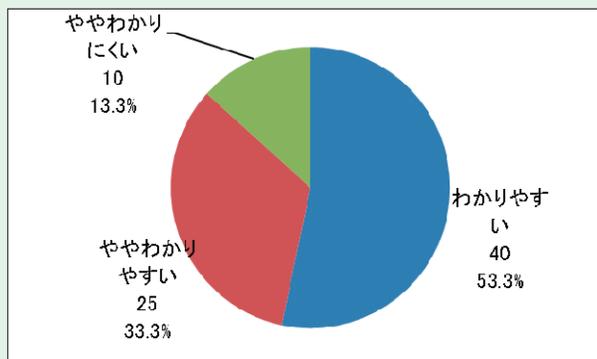
この呼吸に後続母音の「う」をつけて「す」を導きます。



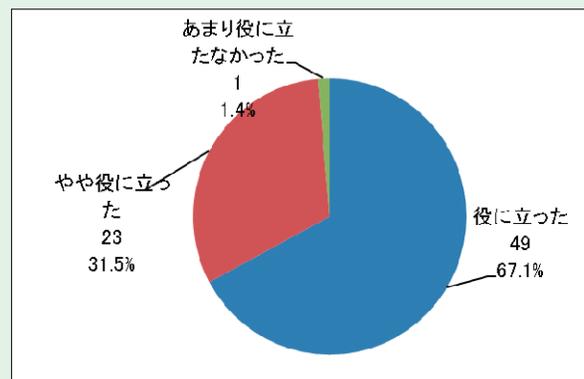
【試作版の評価結果から】

【ネットで学ぶ発音教室】の試作版を言語障害教育担当の先生や言語聴覚士の方、合計75名に評価をしていただきました。

評価結果の一部を以下に示しました。この結果から【ネットで学ぶ発音教室】は、構音指導に関する基礎的な知識や技術を学ぶ際に、利用していただけるのではないかと考えます。



動画教材の内容はわかりやすいか？



動画教材は役に立ったか

【今後に向けて】

【ネットで学ぶ発音教室】では、現在、構音指導の基礎的事項を配信しています。今後もコンテンツを充実させ、経験の長い先生方が日々の実践を確認できるような内容も配信することを計画しています。

また、ことばの教室等で学んでいるお子さんが、保護者とともにご家庭で使っていただけるようなコンテンツの開発も計画中です。各教室や地域での研修等にご活用いただくと幸いです。

本リーフレットは、本研究所と独立行政法人理化学研究所が行った共同研究を基に作成しています。

【研究課題名（研究期間）】

構音障害のある子どもが自ら学べる動画教材と配信技術の開発—ことばの教室の担当者や子どものための『ネットで学ぶ発音教室』の構築—
(平成19年度～平成20年度)

【研究組織】

共同研究機関：独立行政法人理化学研究所
研究代表者：久保山茂樹
(kuboyama@nise.go.jp)
研究分担者：小林倫代